

# 高校一年次の勉強時間

大学入試は、彼／彼女らの学習動機になり得るか

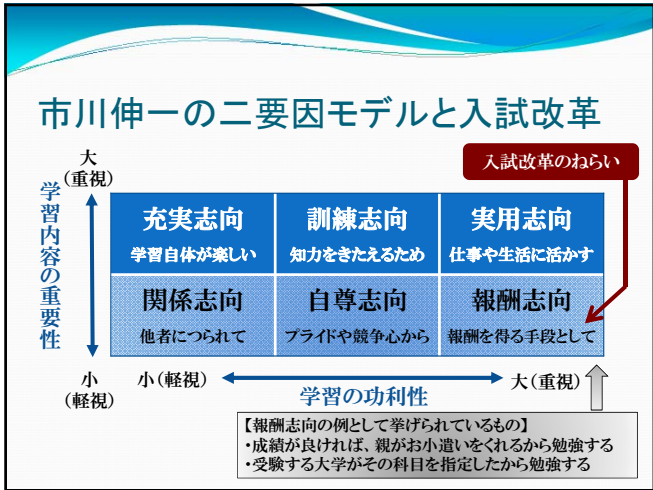
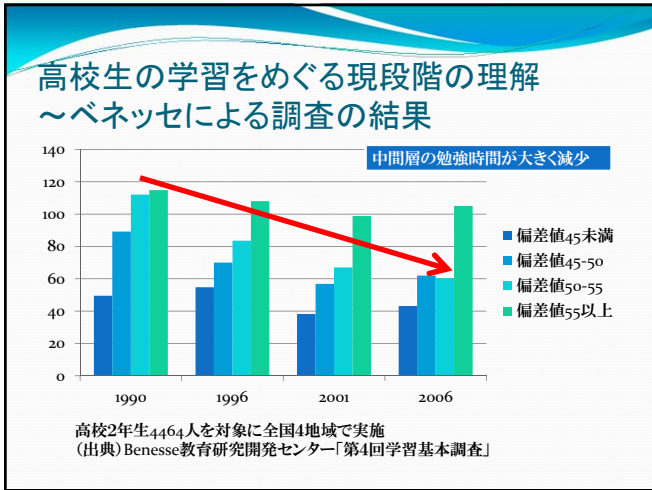
大学入試センター 研究開発部  
濱中 淳子

## 最近の入試改革論議紹介

佐々木隆生氏 日本経済新聞 2013.6.7  
 【記事】入試30年ぶり大改革、複数回テスト検討、学力向上を大学期待、高校に戸惑いも  
 試験1回で学力把握は困難  
 「年1回のセンター試験で学力を正確に把握するのは難しい。高校在学中に複数回受験できれば、大学卒業後も見据えて主体的な学習に取り組みやすくなる。……」

松本亮三氏 産経新聞 2013.7.19  
 【記事】金曜討論「センター試験廃止」  
 高校生の学力底上げ必要  
 「今の高校は出席さえいれれば単位ももらえる。定期試験はあるが落第はごくまれだ。そこに学力不問のAO入試や推薦入試が増え、学力低下につながった。大学は入学者に高校の復習をさせなければならない現状がある。到達度テストを導入して、大学進学を目指す高校生の学力を底上げする必要がある。……」

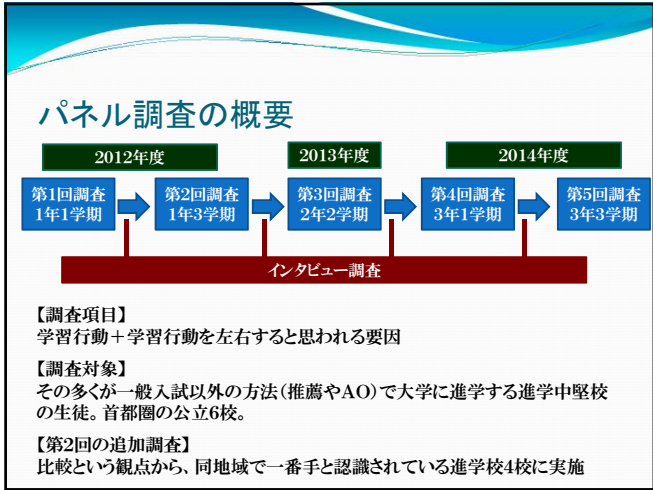
**入試改革＝学習の動機づけ**



## 研究開発部と私の自己紹介

- 新しい高大接続システムに関する研究
  - ・ アドミッション・ポリシーに関する調査
  - ・ 高校生の学習行動に関する調査
- 新しい試験の開発に関する研究
  - ・ 小問型試験の開発
  - ・ 非教科型入学試験の検討
- 試験問題統計情報・関連情報の組織化に関する調査研究
  - ・ 試験問題データベースの開発
  - ・ 先端情報技術を利用した試験の開発
- 得点調整に関するテスト理論的研究

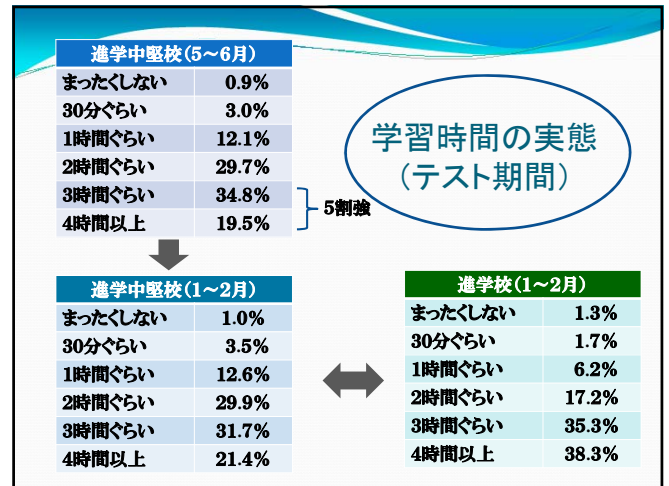
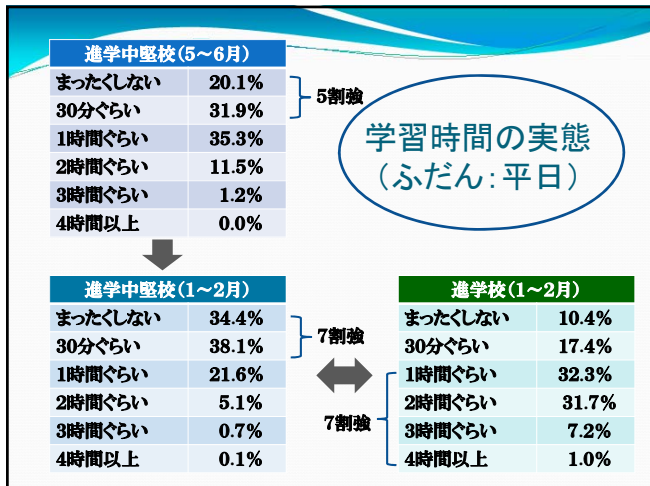
**【私自身の専門】  
・教育社会学  
・社会調査**



## 本報告の3つの柱

- そもそも、高校生の学習時間の現状はどのようなものか。そして、学習時間と成績との関係は？
  - 1つの調査の限界(調査時期、指標、サンプリング)
- 入試方法志向と学習時間の関係
  - 「学力不問入試(=推薦・AO入試)のマイナス影響説」は本当か？
  - 「現在どの入試での進学を考えているか」という指標を用いた分析
- 動機づけ研究の限界...制約を加えた場合の示唆
  - 動機づけ研究=時間の制約を考慮していない
  - 1日24時間しかない時間。高校生の多くが参加する部活動の影響は？

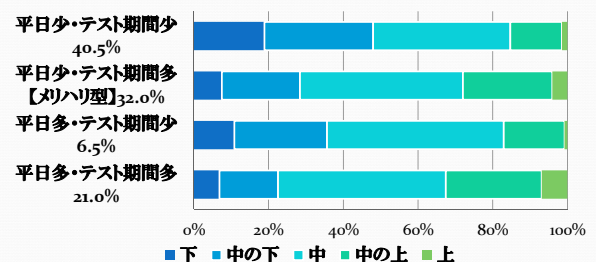
## 学習時間の現状



## 学習行動の分類

		テスト期間	
		2時間ぐらい以下	3時間ぐらい以上
ふだんの平日	30分ぐらい以下	平日少・テスト期間少	平日少・テスト期間多【メハリ型】
	1時間ぐらい以上	平日多・テスト期間少	平日多・テスト期間多

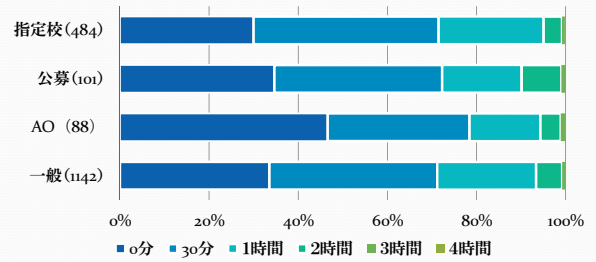
## 類型別にみた成績分布(進学中堅校)



一方で、「平日の学習時間」×「テスト期間の学習時間」の相関係数は.355(進学校は.566)→平日学習できない生徒は、テスト期間もできない

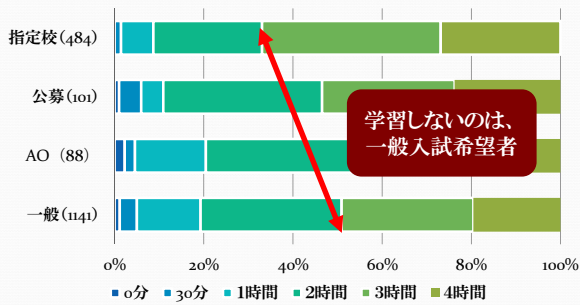
# 入試方法志向の影響

## 進学中堅校：平日の学習時間



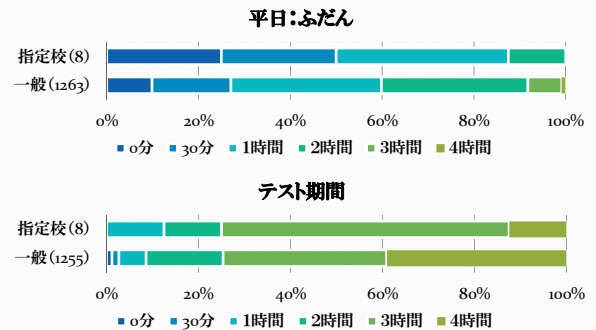
※「指定校」「公募」「AO」「一般」は、「現在どの入試での進学を考えているか」という質問への回答  
 ※有意差なし

## 進学中堅校・テスト期間の学習時間

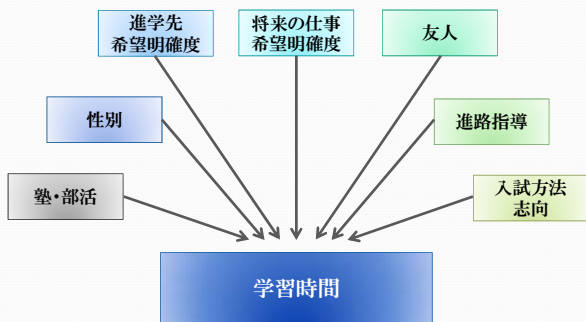


※1%水準で有意

## 進学校の学習時間



## 学習時間を規定することが予想される要因



## 他要因を考慮しても残る指定校のプラス効果

進学中堅校の分析結果	平日:ふだん	テスト期間
塾日数	1日増えると+13分	1日増えると-4分
部活動	参加していると-5分	参加していると+11分
性別	女子だと+4分	女子だと+22分
進学先希望明確度	明確なほど+	
将来の仕事希望明確度	明確なほど+	明確なほど+
友人		
進路指導	指導されているほど+	指導されているほど+
入試方法志向		一般入試志向に比べて、指定校志向だと+20分

# 部活動の影響

## 部活と学習行動との関係～先行研究

西島央を代表とする東京大学グループ(当時)の調査

- 東京・新潟・静岡の高校2年生(同時に中学生にも)
- 調査実施時期は2002年2～3月
- 公立23校、私立8校、合計31校の4,784名



### 【知見】

- 部活動をしていても勉強時間は少なくなるらない
- 部活動の加入者は、勉強への態度が良好
- 部活動の指導者が先生であることで、部活動参加者は学校生活全体をも支持していく
- 部活動は、家庭環境による進学希望のハンディキャップを克服させる要因の一つになっている

(学事出版, 2006年)

本調査データでは、「部活動の有無」は  
平日の勉強時間にわずかなマイナス、テスト期間の勉強時間にはプラスの効果  
→勉強への障害になっているとは言い切れない

## 部活で帰宅時間、自由時間がどう変わるか

### 帰宅時間

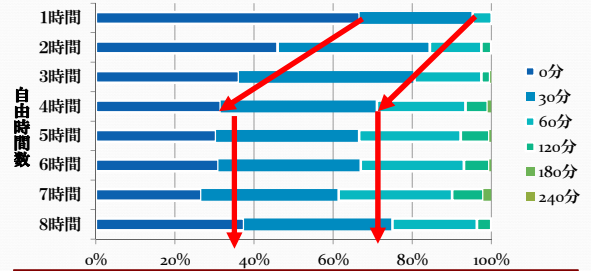
	部活○	部活×
～18時	6.6%	89.0%
19時	34.0%	3.6%
20時	41.6%	1.1%
21時～	17.9%	6.2%

### 就寝までの自由時間

	部活○	部活×
～1時間	1.4%	1.1%
2時間	10.6%	3.6%
3時間	22.6%	1.1%
4時間	33.2%	3.6%
5時間～	32.2%	90.5%

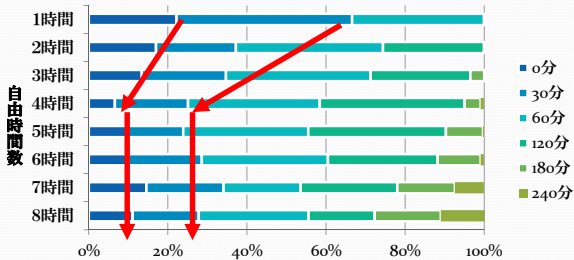
※データは進学中堅校

## 自由時間数 × 学習時間(進学中堅校)



【自由時間4時間の壁】  
学習時間の検出を自分なりにコントロールするためには4時間以上が必要

## 自由時間数 × 学習時間(進学校)



進学校にも存在する「自由時間4時間の壁」・・・ただ、自由時間が2時間しかなくても、6割以上が1時間以上学習しているのが相違点

## まとめと考察

## まとめと考察(1)

### 【学習時間の現状】

- 進学中堅校の学習時間＝少なさが目立つ。とくに高校1年次の一年間の減少は注目される。
- テスト期間に力を入れて学習するという【メハリ型】で、なんとか「基礎体力」を維持(・・・できているのか?)。

### 【入試方法志向の影響】

- テスト期間の学習時間＝学習していたのは、指定校推薦での進学を考えている生徒。「コンスタントに良い成績をとらなくてはならない」というプレッシャーの効果。
- 指定校推薦といった学力不問入試のマイナス影響説も間違っているとは言えない。ただし、進学校でみられる事象。現在の入試改革論議＝進学校の世界を暗黙の前提にしている可能性。
- インタビュー調査のデータ＝「(ある)定期考査で結果を残せなかったので、指定校推薦だったが、一般入試での進学に切り替えた」という生徒の存在。

## まとめと考察(2)

### 【部活動の影響】

- 「自由時間4時間の壁」の存在。学習時間の検出を自分なりにコントロールするには、帰宅してから就寝するまで4時間の余裕があることが必要。
- 部活動、さらには無視し得ない通学時間の関係から、4時間を確保できない生徒が3分の1。
- 少し前までなら、高校3年間部活に熱中しても、1年の浪人期間にみっちり学習し、大学に進学するという世界もあった。文科省データによると、「現役・浪人」の比率は、平成4年で2:1。しかし平成23年現在では6:1に変化。浪人効果が期待できない時代へ。
- 進学校にもみられる4時間の壁。ただ、進学校生徒は、たとえ自由時間が2時間しかなくても、6割以上が1時間以上勉強している。「進学中堅校の生徒もそのようになれ」というのは、現実的な方向性なのか。
- 部活の比重を小さくすれば、その分、学習に向かうという保証はない。けれども、(偏った)入試改革の議論ばかりが先行し、この時間制約の問題をめぐる議論がほとんど展開されていないのも問題ではないか。

## まとめと考察(3)

### 【パネル調査1年目、そしてこれまでの調査経験を踏まえて(私見)】

- 今後の大学入試をどうするのか。その議論を蓄積していくことは重要
  - 測定の精度をあげる努力＝必要
  - 新しい技術の採用を検討＝必要(含:複数回テストの可能性)
  - 到達度テストを望む大学の声を考慮した検討＝必要
- しかし、現状において、入試改革に「高校時代前半期」における「学習の動機づけ」は期待できないのではないか? 試験の改良と動機づけは別次元の話。
  - 到達度＝基準レベルは? 大学入試センター研究開発部が実施した別調査によると、大学教員の3割強が入学最低学力を「中学校卒業程度」あるいは「読み・書き・そろばん」と回答。
  - 学習時間の減少が目立つ進学中堅校では、「年5回の定期考査でコンスタントに良い成績をとらなくては」で学習へのプレッシャーが生まれる。3年の秋以降は、1年次の生徒たちにとって「実感のわからない未来」。新たな試験を複数回するにしても、3年間のどのタイミングで、何度の試験をするのか。
  - 政策課題として引き受けるべきこと、そして学校側が課題として引き受けるべきことの線引きの必要性。

## 補足～報酬志向の梃子入れのために

(市川伸一『学ぶ意欲の心理学』より)

### 【報酬志向を計測する質問項目】

- 成績が良ければ、こづかいやほうびがもらえるから
- テストで成績がいいと、親や先生にほめてもらえるから
- 学歴があれば、おとなになって経済的に良い生活ができるから
- 学歴がいいほうが、社会に出てからもとくなことが多いと思うから
- 勉強しないと親や先生にしかられるから
- 学歴がよくないと、おとなになっていい仕事がないから



(勁草書房, 2013年)

浸透しつつある「学歴の効用への疑問符」